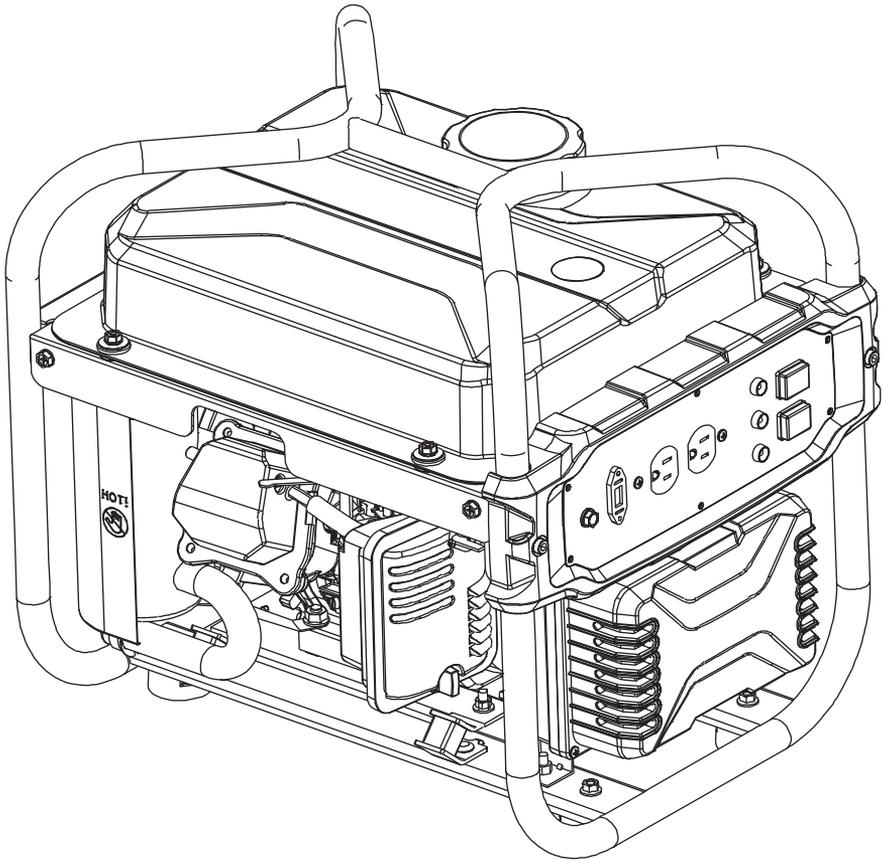


インバーター発電機

PG 1700 i

取扱説明書 (保証書付)



POWERTECH
ELECTRIC POWER TECHNOLOGY

はじめに

お買い上げいただきありがとうございます。

本書は PG1700i 発電機の取扱説明書（保証書付属）です。

本書は必ず発電機と一緒に保管しておいてください。

※本書は発電機の正しい取り扱いおよび点検、調整に関する事項を下記のマークを使用して説明しています。必ず取扱説明書を良くお読みいただいたうえ、取扱説明書の指示に従うようにしてください。



警告

使用において説明書に従わなかった場合、怪我や死に至るおそれがある場合に表示しています。ご不明な点がある場合は販売店、またはパワーテックにご相談ください。



注意

使用において説明書に従わなかった場合、怪我や使用機器に重大なダメージを与えるおそれがある場合に表示しています。ご不明な点がある場合は販売店、またはパワーテックにご相談ください。



ポイント

正しい操作方法や役に立つ情報を表示してあります。



警告

取扱説明書に記載されている注意事項を守らなかった場合、怪我や死に至る場合があります。発電機を起動させる前に本体に貼付されているラベルの注意事項と本書をよくお読みください。

発電機は換気の良い場所で運転するようにしてください。発電機からの排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれていますので大変危険です。

燃料を補給する際には必ずエンジンを停止してから補給するようにしてください。また、発電機を再始動する前に5分間ほど時間を置いて、燃料漏れがないかどうかよく確認してください。



注意

使用前には必ず発電機を点検し、必要ならば清掃、修理をおこなってください。また発電機の燃料タンクには火気を近づけないようにしてください。

本発電機を正しく安全にご使用いただくために、取扱説明書を良くお読みになりご理解ください。ご不明な点は販売店、またはパワーテックまでお問い合わせください。発電機を正しく使用していただき、末永く愛用してくださいますようお願い申し上げます。

弊社では、あらゆる環境下での本機使用で起こりうるすべての危険を予測することはできず、したがって本書に記載されている注意事項はそのすべてを網羅したものではありません。お客様の責任において、十分な注意を払って本機をご使用いただけますようお願いいたします。

※取扱説明書の内容は予告無く変更する場合があります。



警告

発電機を初めて使用される場合の注意事項

1. 必ず屋外にて使用してください

発電機は運転中に一酸化炭素を排出します。室内や倉庫内などの換気の悪い場所で使用しますと一酸化炭素中毒の危険があります。発電機は必ず屋外の換気の良い場所で使用するようしてください。

2. 発電機に水がかからないようにしてください

発電機を雨中や雪中、もしくは水のかかるおそれのある場所では使用しないでください。また、水で濡れた電気機器の使用および濡れた手での操作は感電の危険があるため、絶対にお止めください。

3. エンジンオイルは入っておりません

製品輸送の都合上、エンジンオイルは空の状態になっています。初めて使用する際には必ず取扱説明書に記載の適合するエンジンオイルを規定量入れてからご使用ください。

指定オイル：SE 級以上の SAE 10W-30、もしくは 15W-40 のエンジンオイル

4. 医療機器への使用に関して

医療機器への使用に関しましては必ず事前に医療機器メーカー、医師、病院などに確認してから使用するようしてください。

5. 周波数を使用機器、もしくは使用する地域にあわせて設定してください

本発電機は AC 出力電源 50/60Hz の切替が可能となっていますので使用機器、もしくは使用する地域の周波数（東日本 50Hz、西日本 60Hz）に合わせて切り替えてください。

間違った周波数で使用すると機器の動作不良、故障などにつながるおそれがありますので、使用機器の説明書などで仕様を良く確認してから周波数を設定してください。

6. 初期始動時にエンジンのかかりが悪い場合があります

初めての始動時、もしくは一度燃料を抜いた状態からの始動時にはエンジンのキャブレター内に十分な燃料が供給されていないため、スターターを数回引かないと始動しません。燃料タンク内に十分に燃料が入っていることを確認のうえ、始動するまでスターターを繰り返し引くようにしてください。（始動しない場合は本マニュアルの「エンジン始動」の部分をよく読んで各種スイッチ類の位置およびオイルや燃料の量などを確認してください）

7. 発電機本体が振動により移動する場合があります

発電機本体を鉄板、コンクリートフロアなどの平滑な場所に置いて使用する場合、発電機自身の振動により、本体が移動することがあります。

その場合、転倒や滑落の危険性があるのでストッパーなどを使って発電機の移動防止策をおこなってください。

8. 無鉛レギュラーガソリンを使用してください

使用燃料は無鉛レギュラーガソリンとなっております。故障の原因となりますので軽油などと間違えないよう注意してください。なお、出荷時は燃料タンクは空の状態となっております。

INDEX

1. 安全対策	6
2. 発電機仕様	8
2.1 各部名称	8
2.2 コントロールパネル	9
2.3 安全ラベル	10
2.4 付属品	11
2.5 仕様表	11
2.6 各種警告	12
3. 安全対策	13
3.1 発電機の使用に関して	13
3.2 安全に使用するために	13
3.3 感電を防止するために	14
4. 始動前の準備	15
4.1 燃料	15
4.2 エンジンオイル	15
4.3 始動前の点検	16
5. 発電機の使用	16
5.1 エンジン始動	17
5.2 エンジン停止	18
5.3 AC 電源接続	18
5.4 使用する電気機器に関して	19
6. メンテナンス	20
6.1 メンテナンス	20
6.2 点火プラグの点検	21
6.3 エンジンオイル交換	22
6.4 エアフィルター	23
6.5 マフラーとスパークアレスター	24
6.6 燃料タンクフィルター	25
6.7 燃料フィルター	25
7. 発電機の輸送・保管（長期保管）	26
7.1 燃料排出	26
8. トラブルシューティング	27
8.1 エンジンが始動しない	27
8.2 発電機に接続した電気機器が使用できない	28
9. お問い合わせ窓口	29
9.1 お客様お問い合わせ窓口のご案内	29
9.2 保証内容	31
10. 保証書	32

1. 安全対策

警告



- 本発電機を安全に使用していただくために、発電機使用前には必ず本説明書をよくお読みください。取扱説明書を読まずに操作を行いますと、怪我や死に至るおそれがあります。

警告



- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。換気の悪い場所では決して発電機を作動させないでください。また、安全のために十分な換気をおこなってください。

警告



- 発電機運転中はマフラーが非常に熱くなりエンジンを停止した後も、しばらくは熱くなったままです。マフラーには触れないようにし、エンジンが十分に冷えたことを確認してから発電機を保管してください。
- マフラーおよび排気口周辺は作動中に熱くなり、エンジンを停止した後もしばらくは熱くなっているためメンテナンス等でマフラー部に触れる場合はマフラーの温度が十分下がるのを待ってから触れるようにしてください。

警告

- 発電機は換気の良い開けた場所で使用してください。ガレージや車内など換気の悪い場所で使用しないようにしてください。
- ガソリンは高い引火性と爆発性があります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止した状態で換気の良い場所で補給してください。
- 発電機に燃料を補給する際には煙草や煙、火花等の火気から遠ざけて補給するようにしてください。また、常に換気の良い場所でおこなってください。
- 燃料補給の際にガソリンがこぼれた場合はきれいに拭き取ってください。

警告



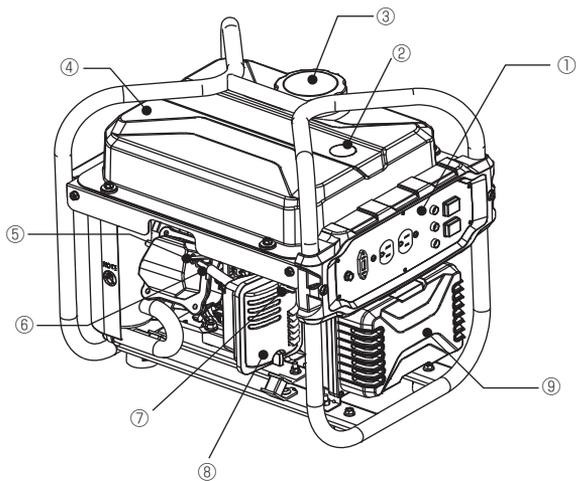
- 通常時はもちろん、停電時でも建物の給電回路には決して発電機の出力電力を接続しないでください。接続された建物内の機器に損傷を与える危険があります。また、公共電力が回復した時に発電機が発火、または爆発するおそれがあります。

警告

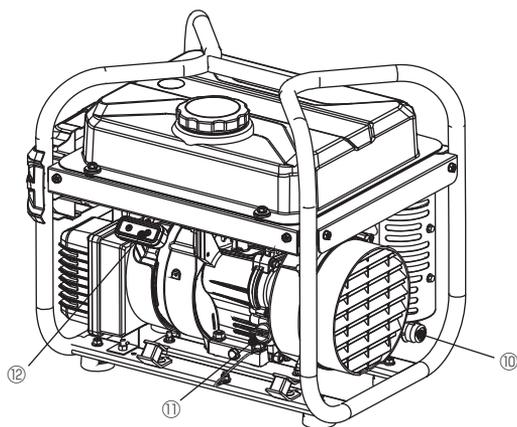
- 発電機を事故や機器損傷から守るためにもエンジンを始動する前に本マニュアルに従って点検を実施してください。
- 発電機運転中は発電機本体を建物などの障害物から少なくとも1メートル以上離してください。
- 発電機は水平で安定した場所に置いて使用するようにしてください。発電機が転倒した場合、燃料漏れなどの事故を引き起こす可能性があります。
- 発電機が運転中に転倒した場合は、すぐにエンジンを停止してください。転倒後、再起動させる時は燃料の漏れが無いか十分に確認したあと、エンジンが冷えてから再起動してください。
- 発電機をすぐに停止させる方法や、操作方法を必ず理解しておいてください。また、適切な説明無しで他の人に発電機を操作させないでください。
- 発電機運転時は発電機に子供やペットなどを近づけないでください。
- 発電機を誤って使用すると感電するおそれがあります。濡れた手で絶対に発電機を操作しないでください。
- 本発電機は防雨使用ではありませんので雨や雪の中で発電機を作動させないでください。また発電機を濡らさないようにしてください。もし、濡らした場合はすぐに使用を停止してください。
- 小石、砂利、土の地面や、でこぼこしていたり、柔らかい地面に発電機を置いて使用するのはお止めください。
- 傾斜している場所に発電機を置いて使用するは大変危険ですのでお止めください。燃料が燃料タンクキャップやキャプテターから溢れて火災の原因になります。

2. 発電機仕様

2.1 各部名称

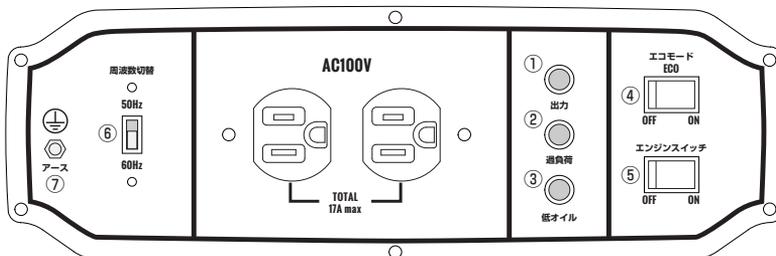


- ① コントロールパネル
- ② 燃料計
- ③ 燃料タンクキャップ
- ④ 燃料タンク
- ⑤ チョークレバー
- ⑥ 点火プラグ
- ⑦ 燃料コック
- ⑧ エアフィルターケース
- ⑨ インバーターユニット



- ⑩ マフラー
- ⑪ オイルフィルターキャップ
- ⑫ リコイルスターターハンドル

2.2 コントロールパネル



① 出力インジケータランプ	出力インジケータランプはエンジンが始動し電力の供給が開始されると緑色に点灯しません。
② 過負荷インジケータランプ	<p>発電機に接続した電気機器によって発電機が過負荷状態になると過負荷インジケータランプが点灯し、発電機を保護するために電力の供給を停止します。過負荷状態では発電機のエンジンは停止せず出力インジケータランプ（緑）が点灯し、過負荷インジケータランプ（赤）が点灯したままの状態となります。過負荷インジケータランプが点灯し電力供給が停止した場合は以下の手順に従ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発電機に接続している電気機器のスイッチを全て OFF にしてから発電機のエンジンを停止する。 2. 使用する電気機器の消費電力の合計を発電機の定格出力内に収まるように調整する。 3. インバーターユニット付近に冷却用の吸気を阻害するものがないかよく確認し、阻害しているものがあればそれを取り除いてください。 <p>上記項目点検後、問題が無ければ発電機を再始動します。 ※起動電力の大きい電気機器（コンプレッサー、水中ポンプなど）を使用した場合、過負荷インジケータランプが数秒間点灯することがありますがこれは故障ではありません。</p>
③ 低オイル警告ランプ	エンジンオイルの量が規定以下になると黄色に点灯してエンジンを自動的に停止します。エンジンオイルを規定量以上補給するまでエンジンを始動することは出来ません。
④ エンジンスイッチ	エンジンスイッチを ON にするとイグニッション回路のスイッチが ON になりエンジンは始動可能となります。エンジンスイッチを OFF にするとイグニッション回路のスイッチが OFF になりエンジンが始動できなくなります。
⑤ エコモードスイッチ	エコモードスイッチを ON にするとエコモードスイッチシステムは負荷に応じてエンジン回転数を制御し燃料の消費と動作ノイズを軽減します。エコモードスイッチを OFF にするとエンジンは負荷の有無に関わらず定格回転数（4500rpm）で動作します。
⑥ 周波数切替スイッチ	スイッチを切り替えることで発電機の周波数を 50Hz、または 60Hz に切り替えることができます。ご使用になる電気機器の仕様に合わせて周波数を切り替えてください。
⑦ アースターミナル	感電を防止するために発電機のアースターミナルにアース線を取り付けて確実にアースを取るようにしてください。

2.3 安全ラベル

発電機本体に貼付されているラベルには発電機を安全に使用するための注意事項が記載されています。ラベルの内容をよく理解して注意して発電機を使用するようにしてください。

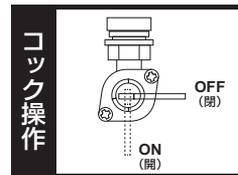
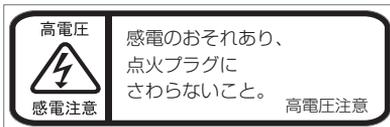
ラベルがはがれたり読みづらくなった場合は販売店、またはパワーテックに連絡して新しいラベルに貼り替えてください。

取扱要領

- 始動
1. オイルとガソリンを点検し、燃料コックを開く。
 2. エンジンスイッチを“ON”にする。
 3. チョークを操作する。
 4. スターターロープを勢いよく引く。
 5. エンジン始動後、チョークを戻す。
- 停止
1. エンジンスイッチを“STOP”にする。
 2. 燃料コックを閉じる。

長期保管

- 長期間（3ヶ月以上）使用しない場合は以下の手入れを実施してください。
燃料は自然劣化します。実施しないとエンジンが始動しない場合があります。
1. 燃料タンク内の燃料を完全に抜いてください。
 2. キャブレターのドレンネジを締め燃料を抜いてください。
 3. 室内の湿気の少ない換気の良い場所に保管してください。



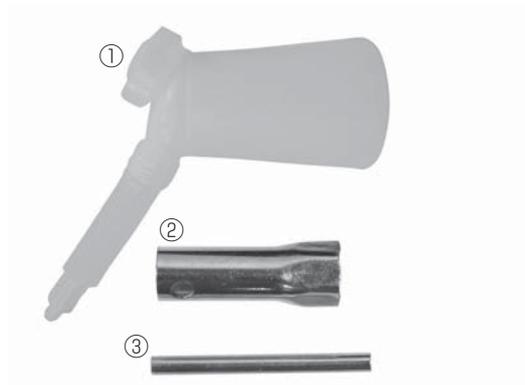
チョークレバー

運転 ← → **始動**

※「始動」でかからない場合、運転でかけてください

2.4 付属品

発電機を便利に使用するためのアクセサリやメンテナンスの際に使用する道具が付属しています。付属品がしっかりと揃っているかどうか確認してください。



- ① オイルジョッキ (容量 200cc)
- ② プラグレンチ
- ③ プラグレンチハンドル

2.5 仕様表

1. 型式番号	PG1700i
2. エンジン形式	4 ストローク単気筒空冷 OHV
3. 排気量	119cc
4. 始動方法	リコイルスタート
5. 燃料タンク容量	8 リットル
6. 燃料	無鉛ガソリン
7. エンジンオイル容量	0.4 リットル
8. エンジンオイル	SE 級以上の 4 サイクルエンジンオイル
9. 点火プラグ	NGK BPR7HS または同等品
10. 定格周波数	50/60Hz
11. 定格電圧	100V
12. 定格電流	17A
13. 定格出力	1700W
14. 力率	1.0
15. 騒音レベル	65db (7m)
16. 燃料消費	357g/kw*h
17. 定格出力時における連続運転時間	5.4h
18. 本体寸法	D455 × W390 × H435mm
19. 本体重量	21kg

2.6 各種警告

以下に記載されている内容に十分に注意して発電機を取り扱うようにしてください。

⚠ 警告	
	<ul style="list-style-type: none">» ガソリンは高い引火性と爆発性を持っているため発電機は必ず屋外で使用するこゝと。» ガソリンは十分に注意して取り扱うこゝと。» 発電機に給油する際は必ず発電機のエンジンを停止し、火気から遠ざけた状態で給油するこゝと。» 給油作業は必ず屋外で実施するこゝと。» 燃料は燃料タンクの上限レベル以上給油しないこゝと。» 燃料がこぼれた場合はすぐに拭き取るこゝと。
	<ul style="list-style-type: none">» 発電機を密閉された空間や仕切られた空間で絶対に使用しないこゝと。室内などの密閉された空間で発電機を使用すると一酸化炭素によって重大な事故が発生するおそれがあります。
⚠ 警告	
	<ul style="list-style-type: none">» 発電機を給電されているコンセントに接続しないこゝと。感電や火事などの重大な事故が発生するおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none">» 乾燥した状態以外で発電機を使用すると感電の危険があります。» 湿気が多い場所や雨天、降雪している状態の中で発電機を使用しないこゝと。» 濡れた手で発電機に触れないこゝと。
	<ul style="list-style-type: none">» 発電機を使用する前に取扱説明書をよく読んで内容を理解しておくこゝと。

3. 安全対策

3.1 発電機の使用に関して

- » 発電機を屋内では使用しないこと。
- » 発電機を雨天の中や濡れた状態で使用しないこと。
- » 発電機を建物などのコンセントには絶対に接続しないこと。
- » 可燃物から最低でも 1m 以上離してから使用すること。
- » 給油中に火気を近づけないこと。
- » 給油時に燃料を溢さないこと。
- » 給油時には発電機のエンジンを停止すること。
- » 排気ガスや燃料、エンジンオイルには有害な物質が含まれているため十分に注意してください。
- » 使用済みのエンジンオイルはお住まいの地域の法令に従い、正しい手順で廃棄するようにしてください。
- » 発電機の設置や修理は専門知識を持つ技術者が行うようにしてください。
- » 安全のため発電機使用時はグローブや耳栓、保護メガネなどを着用してください。
- » 発電機は適切な環境下で定格出力で使用することができます。不適切な環境下で発電機を使用した場合、定格出力での使用ができなかったり発電機の寿命を短くするおそれがあります。
- » 高温環境や高地、高湿度など不適切な環境下で発電機を使用すると定格出力で使用できないおそれがあります。発電機は以下に記載されている環境下で使用することをお勧めします。
 - * 使用環境温度：- 5℃～ 40℃
 - * 使用環境湿度：50% 以下（環境温度 40℃時）
 - * 使用環境高度：1000m 以下

3.2 安全に使用するために

- » 発電機の近くに子供を近づけないようにしてください。
- » ガソリンは高い引火性と爆発性を持っているため、発電機運転中に給油したり給油時に火気を近づけないようにしてください。また、給油時に燃料をこぼさないように注意してください。
- » マフラーなどの部品は発電機運転中や運転直後に大変高温となり火傷の危険があります。発電機に貼付されているラベルをよく読んで注意してください。
- » 排気ガスには一酸化炭素が含まれているため大変危険です。発電機を換気の悪い屋内で使用しないようにしてください。

3.3 感電を防止するために

- » 発電機を使用する前に発電機と発電機に接続して使用する電気機器や延長コードに問題はな
いかよく確認してください。
- » 発電機を建物の給電装置などには絶対に接続しないようにしてください。給電切替装置に発
電機を接続する場合は法令に基づく資格を持つ技術者が法令に基づいて作業する必要があります。
- » 延長コードを使用する場合は延長コードの抵抗値が 1.5Ω を超えないようにしてください。
またコードが 1.25 スケの場合はコードの長さは 60m 以下、2 スケの場合は 100m 以下で使
用するようにしてください。
- » 感電を防止するためにも発電機のアースターミナルに必ずアース線を取り付けて発電機の使
用時には常時アースを取るようにしてください。
- » 発電機はお住まいの地域の法令に従って使用するようにしてください。
- » 発電機を建物などの商用電源には絶対に接続しないようにしてください。また電源切替ス
イッチなどで商用電源との併用は専門の知識と資格を持つ技術者が行うようにしてくださ
い。

4. 始動前の準備

4.1 燃料

1. 燃料は無鉛ガソリンを使用してください。
2. 燃料とエンジンオイルを混合しない。
3. 燃料タンクキャップまわりはきれいに掃除しておく。
4. 燃料タンクキャップを取り外す。
5. 燃料をゆっくり補給する。その際には燃料を溢さないよう注意すること。
6. 燃料は膨張することがあるため燃料タンク内に最低でも 10mm 程度の空間が空くようにすること。燃料が膨張してあふれ出して発電機に悪影響を与えるおそれがあります。燃料補給の際はそのことを考慮して燃料を補給するようにしてください。
7. 燃料タンクキャップを取り付け、溢れた燃料があれば拭き取ります。
8. 燃料の量や気温などにより、燃料計から燃料が滲み出た場合は拭き取ってください。(燃料系の故障ではありません)

▲ 警告

- » ガソリンは高い引火性と爆発性を持ち、有毒なため取り扱いには十分に注意してください。
- » 燃料補給の前に安全に関する情報をよく読んで理解してください。
- » 燃料タンクに燃料を入れすぎると燃料温度が上昇して膨張した際に燃料が溢れるおそれがあります。

▲ 注意

- » 燃料が溢れた場合はすぐに拭き取って発電機の塗装箇所やプラスチック部品へ悪影響を与えないようにします。
- » 燃料は必ず無鉛ガソリンを使用するようにしてください。
- » 燃料の量に問題がないかどうか確認してください。
- » 燃料タンクキャップに通気口があります。本発電機を傾けると燃料が溢れるおそれがあります。

推奨燃料：無鉛ガソリン

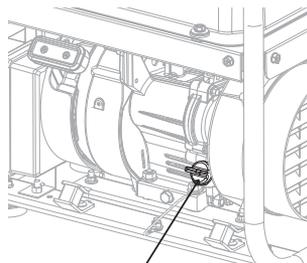
燃料タンク容量：8 リットル

4.2 エンジンオイル

▲ 注意

発電機はエンジンオイルが入っていない状態で出荷されます。必ずエンジンオイルを規定量補給してから発電機を始動してください。

1. オイルフィルターキャップを取り外す
 2. 規定のエンジンオイルを規定量補給してオイルフィルターキャップを元の場所に取り付ける
 - 推奨エンジンオイル：SAE 10W-30 または 15W-40
 - 推奨エンジンオイルグレード：SE 級以上
 - エンジンオイル容量：0.4 リットル
- 非合成のオイルや 2 ストロークエンジンオイルはエンジンの寿命を縮めるおそれがあります。
 - 高品質の 4 ストローク用の合成オイルを使用してください。



オイルフィルターキャップ

4.3 始動前の点検

警告

始動前の点検で不具合のある箇所があった場合は不具合のあった箇所を点検・修理してください。発電機の状態に関してはユーザーがその責任を負うものとします。発電機は使用しなるとも劣化していく部品がありますので注意してください。

※始動前の点検は発電機を使用する度に行ってください。

始動前の点検

燃料

- 燃料の量を点検し、必要であれば燃料を補給してください。

エンジンオイル

- エンジン内のエンジンオイルの量を点検し、必要であれば規定のエンジンオイルを補給します。
- エンジンオイル漏れがないか点検します。

発電機使用時に異変を感じた場合

- 27 ページの「8. トラブルシューティング」を参照
- 接続機器の確認
- 必要であれば販売店 / パワーテックまで連絡

5. 発電機の使用

警告

- 発電機を密閉された空間で使用しないようにしてください。排気ガスに含まれる一酸化炭素によって短い時間で意識を失ったり死に至るおそれがあります。発電機は換気の良い屋外で使用するようしてください。
- 発電機を始動する際は発電機に電気機器を接続したままにしないこと。

注意

- 発電機はエンジンオイルが入っていない状態で出荷されます。必ずエンジンオイルを規定量補給してから発電機を始動してください。
- 発電機を傾けた状態でエンジンオイルを補給しないようにしてください。エンジンオイルの入れすぎによってエンジンに損傷を与えるおそれがあります。

推奨される環境下では発電機は定格出力で使用することができます。

推奨される環境

気温：25℃

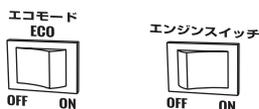
大気圧：100kPa

湿度：30%

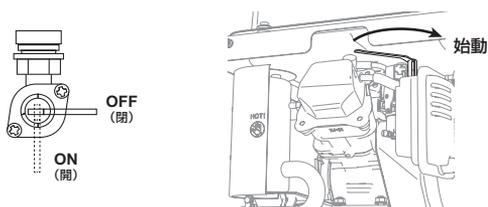
発電機の出力は気温や高度、湿度により変動します。推奨される環境値より数値が高くなると発電機の出力は低下します。また、発電機の冷却に影響を及ぼす換気の悪い場所での使用も発電機の出力が低下します。

5.1 エンジン始動

1. コントロールパネルのエコモードスイッチを OFF にします
コントロールパネルのエンジンスイッチを ON にします



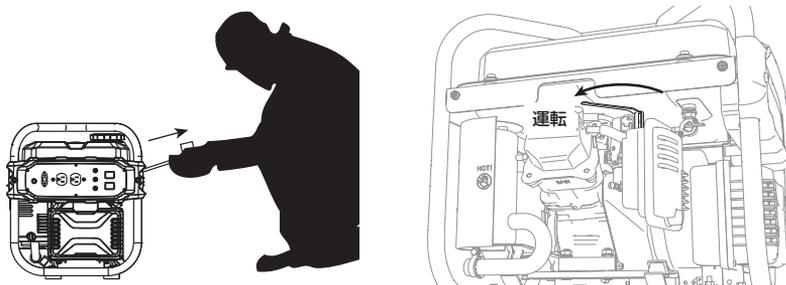
2. 燃料コックを ON の位置に合わせます
3. チョークレバーを始動の位置に合わせます



▲ ポイント

エンジンが暖まっている状態や気温の高い時はチョークレバーを運転の位置で始動したほうがエンジンのかかりが良い場合があります。

4. リコイルスターターを軽く抵抗が感じられるまでゆっくりと引き出し、その後勢いよく引っぱります。数回繰り返してもエンジンが始動しない場合はチョークレバーを運転に合わせてリコイルスターターを引っぱってください。
5. エンジンが始動したらゆっくりチョークレバーを運転に合わせます。



▲ ポイント

- » 気温 0℃以下で使用する場合はエンジンを始動してから約 5 分間、エコモード OFF で暖気運転するようにしてください。
- » 気温 5℃以下で使用する場合はエンジンを始動してから約 3 分間、エコモード OFF で暖気運転するようにしてください。

エコモードスイッチは上記の暖気運転が終了してから ON にするようにしてください。

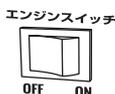
5.2 エンジン停止

▲ ポイント

- » 発電機に接続している電気機器の電源を全て OFF にしてください。
- » エコモードスイッチを OFF にします。



- » 発電機に接続している電気機器を全て取り外します。
- » エンジンスイッチを OFF にします。



5.3 AC 電源接続

▲ 警告

電気機器を接続する際には電気機器のスイッチが OFF になっていることを確認すること。

▲ 注意

発電機に接続する前に電気機器のプラグやコードに異常がないか確認しておきます。

- » 使用する電気機器が要求する電力が発電機の定格出力内に収まっているかどうか確認する。
- » 電気機器の要求する電流値がコンセントの限界電流値内に収まっているかどうか確認する。

▲ ポイント

発電機のアースがしっかりと取られているかどうか確認してください。

- » 発電機のエンジンを始動する。
- » 電気機器のプラグを発電機の発電機のコンセントに接続する。
- » コントロールパネルの出カインジケータランプが点灯していることを確認する。
- » 発電機に接続した電気機器のスイッチを ON にする。
- » 発電機に複数の電気機器を接続している場合は起動電流の大きい電気機器からスイッチを入れるようにしてください。
- » エコモードスイッチ ON の状態で瞬間的に大きな電力が必要な場合や消費電力が大きい機器を使用した時に機器が正常に作動しない場合があります。
- » 消費電力の大きい機器を使用する場合や大きな起動電力が必要なモーターなどを使用する場合はエコモードスイッチをあらかじめ OFF にしてください。
- » エコモードスイッチ ON の状態で長時間使用されますと点火プラグの電極部にカーボンが付着する場合があります。定期的に点火プラグを掃除していただくか、一時的にエコモードスイッチを OFF にしてから一定負荷で運転するようにしてください。

5.4 使用する電気機器に関して

発電機使用時は発電機の損傷を防ぐため電気機器の要求する電力の合計が発電機の定格出力内に収まるように注意してください。

AC			
力率	1	0.8-0.95	0.4-0.75
定格出力	≦ 1600W	≦ 1280W	≦ 544W

使用する電気機器のワット数はその電気機器単体で使用した場合の数値となります。必要となる電力の合計が定格出力値以上とならないように注意してください。

電気機器が要求する電力の合計が発電機の定格出力を超えた場合、過負荷インジケータランプが点灯します。(9 ページ参照)

- » 過負荷状態になると発電機に損傷を与えるおそれがありますので過負荷状態にならないよう十分に注意して発電機を使用してください。
- » パソコンなどの精密機械やバッテリーチャージャーを使用する場合、エンジンからの電氣的干渉防止のため発電機から出来るだけ離して使用するようになしてください。
- » また、発電機の近くで電気機器を使用するとノイズの影響を受けることがあります、十分に注意するようになしてください。
- » 医療機器を発電機に接続して使用する際には接続する医療機器の製造メーカーに発電機で使用できるかをよく確認して使用するようになしてください。
- » 特定の電気機器、とくにモーターを搭載しているものは大きな起動電流を必要とします。そのため消費電力が発電機の定格出力内に収まっても起動電流が原因で使用できない場合があります。電気機器の製造元によく確認を取ってから使用するようになしてください。

6. メンテナンス

発電機を安全かつ快適に使用するため正しくメンテナンスしてください。
 発電機のエンジンを適切に使用できるように以下に記載されているメンテナンススケジュールに従って定期的にメンテナンスします。

6.1 メンテナンス

下記のメンテナンススケジュールに従って発電機を定期的にメンテナンスしてください。

		毎回	初回使用から1か月 または運転20時間	3か月毎または運転 50時間毎	毎年または運転時間 100時間毎
エンジンオイル	オイル量の点検	○			
	オイル交換		○	○	
エアフィルターエレ メント	点検	○			
	清掃		○		
	交換			○	
点火プラグ	点検・調整				○
スパークアレスター	清掃			○	
燃料タンクと燃料 フィルター	清掃				○
燃料配管	点検	2年ごとに点検（必要に応じて交換）			
シリンダーヘッド、 ピストン	カーボン除去	運転125時間毎			

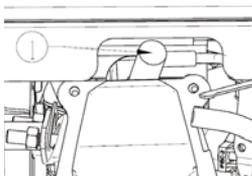
注意

- » 高温環境下や高い負荷がかかる状態で発電機を頻繁に使用する場合はエンジンオイルを25時間毎に交換してください。
- » 発電機をほこりの多い場所や過酷な環境下で使用する場合はエアクリーナーを運転10時間毎に掃除し運転25時間毎に交換してください。
- » メンテナンス期間と時間数がそれぞれ記載されている場合は先に到達した期間、もしくは時間を優先してください。
- » メンテナンススケジュールに記載されている項目をメンテナンスし忘れた場合は出来るだけ速やかにメンテナンスするようにしてください。

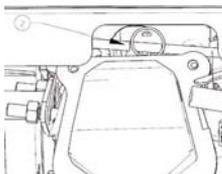
6.2 点火プラグの点検（推奨点火プラグ：NGK BPR7HS または同等品）

点火プラグはエンジンにとって重要な部品ですので定期的に点検してください。

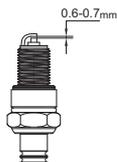
1. 点火プラグキャップを取り外してからプラグレンチを点火プラグに組み付けます。



2. ハンドルバーをプラグレンチに差し込んでプラグレンチを反時計回りに回して点火プラグを取り外します。



3. 点火プラグにすすやカーボンが付着していないか点検します。また点火プラグの焼け具合も点検し中間一明るい茶色であるか確認します。
4. 点火プラグの形式とギャップを確認します。ギャップの正常値はおおよそ 0.6 ~ 0.7mm となっています。



▲ ポイント

点火プラグはゲージでギャップが適正值である 0.6 ~ 0.7mm であるか確認し、必要ならば調整します。

- » 点火プラグの組み付け—点火プラグは締め付けトルク 20Nm で取り付けます。
 - » トルクレンチが無い場合は点火プラグをプラグの台座がガスケットに当たるまで指先でねじこんでから 1/4 ~ 1/2 回転ほどプラグレンチで締め付けます。ただし出来るだけトルクレンチを使用して正しい締め付けトルクで点火プラグを取り付けるようにしてください。
5. 点火プラグを組み付けた後に点火プラグキャップを取り付けます。

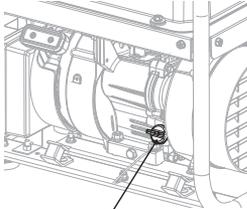
キャブレター調整

- » キャブレターは非常に繊細な部品ですので調整作業は経験のある技術者が行うようにしてください。

6.3 エンジンオイル交換

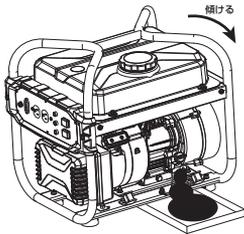
発電機運転停止直後のエンジンオイルが暖まっている状態でエンジンオイルを排出します。エンジンオイルは非常に高温となっていますので排出の際は火傷しないよう充分に注意するようにしてください。

1. 発電機を水平な場所に設置してから数分間暖気運転してから発電機を停止します。
2. 燃料タンク内とキャブレター内の燃料を排出してください。(26 ページ参照)
3. オイルフィルターキャップを取り外します。

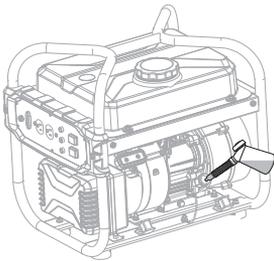


オイルフィルターキャップ

4. エンジンの下にオイルパンを用意し、発電機を傾けてエンジンオイルを完全に排出します。



5. 新しいエンジンオイルを付属品のオイルジョッキを利用して規定量補給します。



6. 溢れたエンジンオイルはきれいに拭き取ってください。
7. オイルフィルターキャップを元の場所に取り付けてください。

▲ 注意

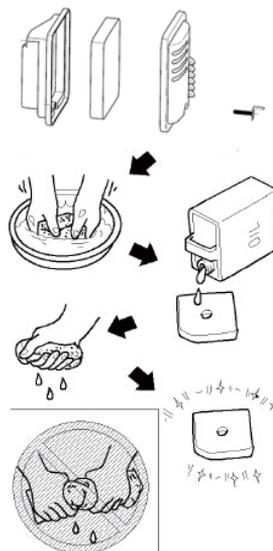
- エンジンオイル補給中は発電機を傾けないようにしてください。エンジンオイルを補給しすぎて発電機に損傷を与えるおそれがあります。
- エンジンオイルは 4 ストローク用 SE 級以上の SAE10W-30 のものを使用してください。
- エンジンオイルの容量は 0.4 リットルです。

6.4 エアフィルター

▲ 注意

エアフィルターの点検・清掃中はエンジンのクランクケース内に異物が入り込まないように十分に注意して作業してください。

1. エアフィルターカバーのネジを取り外してエアクリーナーカバーを下から持ち上げて取り外します。
2. エアフィルターエレメントを取り外します。
3. エアフィルターエレメントを溶剤で洗浄した後に乾燥させます。
4. 乾燥させたエアフィルターエレメントにエンジンオイルに軽く浸してから軽く絞って余分なエンジンオイルを取り除きます。
5. エアフィルターエレメントはエンジンオイルが滴ることなく湿った状態となるようにしてください。
6. エアフィルターエレメントを元の位置に取り付けます。
7. エアフィルターカバーを元の位置に取り付けてネジで固定します。



▲ 注意

エンジンオイルに浸したエアフィルターエレメントは絞りすぎないように注意してください。

▲ 注意

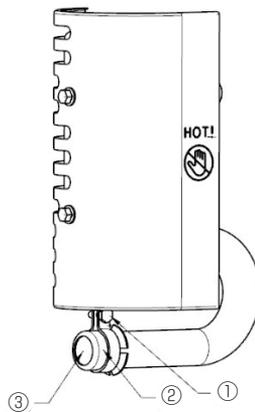
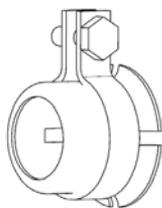
エアフィルターエレメントはエアフィルターケース内にしっかり取り付けて空気漏れが無いようにしてください。また、エアフィルターエレメントを取り付けずに発電機を運転することは絶対にお止めください。異物が入り込み、ピストンやシリンダーが損傷するおそれがあります。

6.5 マフラーとスパークアレスター

警告

発電機運転中と停止直後はエンジンとマフラーが高温になります。メンテナンスなどでエンジンとマフラーに触れる場合は十分に温度が下がったことを確認してから触れるようにしてください。

1. ワイヤブラシなどでスパークアレスターのメッシュ部③に堆積したカーボンを取り除きます。
2. スパークアレスターのメッシュ部分に破れがあるようならばマイナスドライバーで①のボルトを弛めてスパークアレスターを取り外し、破れたメッシュ④を交換します。



注意

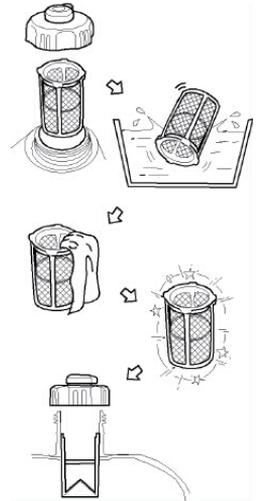
ワイヤブラシを使う際はスパークアレスターが破損しないよう優しく掃除するようにしてください。

6.6 燃料タンクフィルター

▲ 警告

燃料タンクフィルターをメンテナンスする時には絶対に火気を近づけないようにしてください。

1. 燃料タンクキャップと燃料タンクフィルターを取り外します。
2. 燃料タンクフィルターをガソリンで洗浄します。
3. 洗浄した燃料タンクフィルターをよく乾かしてから元の位置に取り付けます。
4. 燃料タンクキャップを元の位置に取り付けます。しっかりと取り付けられているかよく確認してください。

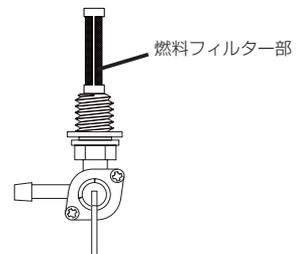
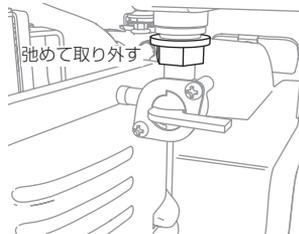
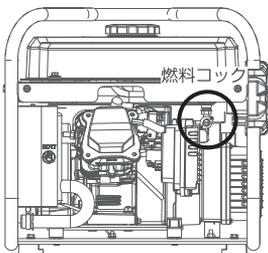


6.7 燃料フィルター

▲ 警告

燃料フィルターをメンテナンスする時は発電機が停止していることを確認してからメンテナンスします。また、メンテナンスの際に燃料がこぼれるおそれがあるため絶対に火気を近づけないようにしてください。

1. 燃料タンクから燃料を抜き取ります。
2. 燃料コックを閉じて燃料コックに接続されている燃料ホースのホースクランプを弛めて燃料ホースを取り外した後、燃料コック上部にある六角部をスパナなどで弛めて燃料コック部を取り外します。



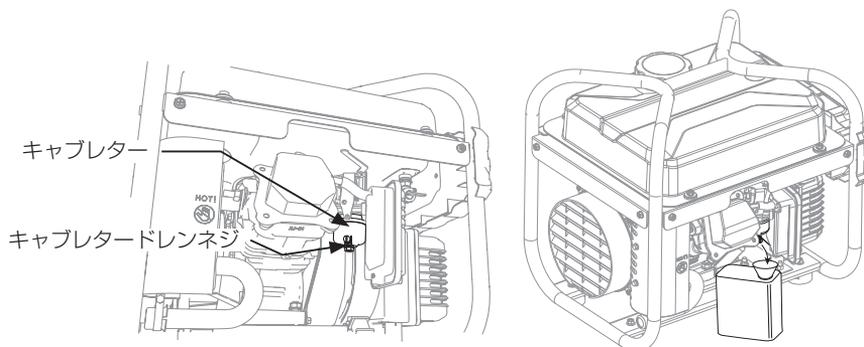
3. 燃料コックに取り付けられている燃料フィルター部を灯油で洗浄します。
4. 洗浄した燃料コックを再び発電機に組み付け、燃料ホースを元の位置に接続してから燃料コックを開いて燃料漏れがないかどうかよく確認します。

7. 発電機の輸送・保管（長期保管）

- » 発電機を輸送する際や保管する場合は必ず燃料を抜いてください。
- » 発電機は燃料コック及びエンジンスイッチをオフにした状態で通常使用時と同じ姿勢で輸送 / 保管します。
- » 輸送する車両内で発電機を絶対に使用しないこと。発電機を使用する際には発電機を車両から降ろして換気の良い場所で使用するようになしてください。
- » 車両内で発電機に直射日光が当たらないように注意してください。また、夏場など直射日光が車両に当たる状態で発電機を長時間車内に保管したままにすると車内が高温になり発電機の気化した燃料による爆発事故が発生するおそれがありますので十分に注意してください。

7.1 燃料排出

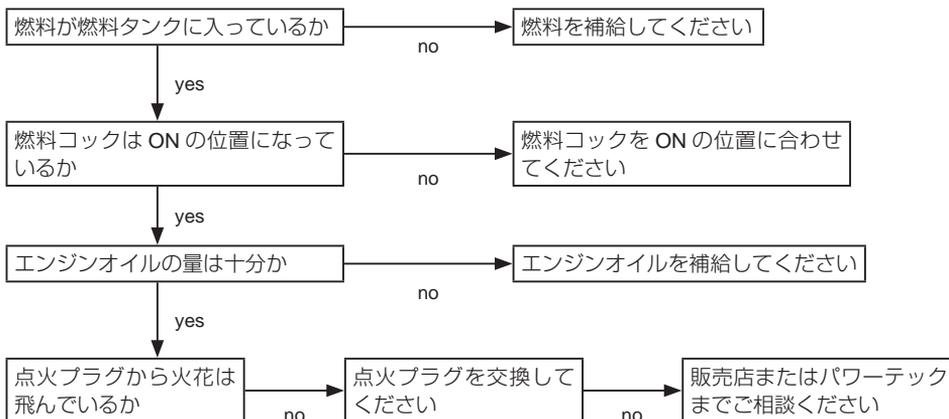
1. エンジンスイッチを OFF に合わせます。
2. 燃料タンクキャップを取り外し燃料タンクフィルターを取り外します。燃料タンク内の燃料を適当な容器に抜き取ってから燃料タンクキャップを元の位置に取り付けます。
3. 燃料コックを ON にしてからキャブレタードレンネジを弛めます。
 - » キャブレターから排出される燃料を適当な容器で受けるようになしてください。
 - » 燃料を抜いた後、キャブレタードレンネジをきっちりと締めてから燃料コックを OFF の位置に合わせてください。



4. 長期保管前にはエンジンオイルを交換してください。
5. 点火プラグを取り外し、小さじ一杯程度のきれいなエンジンオイルをシリンダー内に注ぎます。リコイルスターターを数回引いてオイルをなじませた後、点火プラグを再び取り付けてください。
6. リコイルスターターを抵抗が感じられるまで引いてください。これによりピストンが圧縮点に達し、吸気 / 排気バルブが閉じた状態となります。

8. トラブルシューティング

8.1 エンジンが始動しない



■ 点火プラグ点検方法

1. 発電機から点火プラグキャップを取り外して掃除します。
2. 発電機から点火プラグを取り外してプラグキャップに取り付けます。
3. プラグの電極部をエンジンの金属部分に押し当てます。
4. リコイルスターターを引いて点火プラグから火花が飛ぶかどうか確認します。

■ 燃料確認

1. 燃料コックを OFF の位置に合わせてキャブレタードレンネジを弛めます。
2. 燃料コックを ON の位置に合わせてみて燃料がキャブレタードレンホースから出てくるかを確認します。

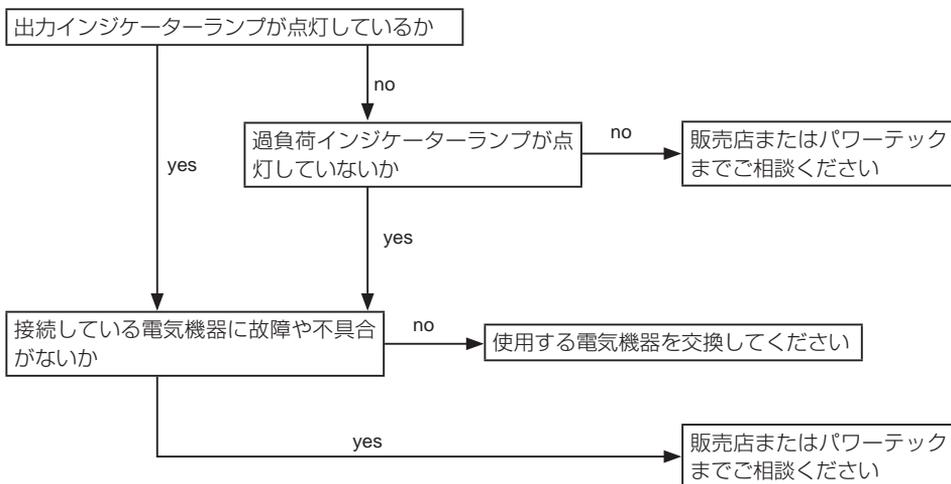
▲ 注意

本体裏面にあるドレンホースから燃料が漏れてエンジンが停止してしまう場合は異物混入によるキャブレターの不調が考えられます。

その場合は 26 ページの「7. 発電機の輸送・保管（長期保管）」を参照して一旦キャブレターからガソリンを抜いた後に改めて発電機を再始動してみてください。

キャブレターからガソリンを抜いたにも関わらず発電機の再始動に失敗する場合は販売店またはパワーテックまでご相談ください。

8.2 発電機に接続した電気機器が使用できない



9. お問い合わせ窓口

9.1 お客様お問い合わせ窓口のご案内

お買い上げいただきました製品についてのお問い合わせ・ご相談・修理依頼は下記の窓口までお願いいたします。

なお、修理依頼される場合は依頼される前に本書に掲載されているトラブルシューティングを参考に点検し、不具合が解消されない場合に修理を依頼してください。

①お電話からの場合

パワーテックサービスセンター (0959-29-5111) までお電話いただき、オペレーターに必要事項をお伝えください。(その際に故障内容をなるべく詳しくお伝えくださるようお願いいたします。)

②インターネットからの場合

パワーテックホームページ (<http://power-tech.jp>) にアクセスし、お問い合わせメニューから引取修理サービスを選び必要事項を記入のうえ、送信してください。

修理依頼時の手順

※保証期間内 (購入後 1 年以内、保証書あり) の場合

1.) 上記の手順で修理依頼をした後、不具合品と一緒に「保証書」を添えてお買い求めの販売店へお持ち込みください。引取修理サービスをご利用の場合はパワーテックが引取便を手配いたしますので、不具合品を梱包のうえ、「保証書」を中に入れて引取便のドライバーにお渡しください。

2.) 弊社サービスセンターにて確認後、要修理品については修理、修理不可能品は代替品にて対応させていただきます、お客様にご返送いたします。

保証期間内でも保証適用除外事項による故障は有償となります、その際は弊社からご連絡さしあげます。

※保証期間外 (保証期間後、もしくは保証書なし) の場合

1. 一度お電話、メール等でご相談ください。
2. 不具合品をお買い求めの販売店へお持ち込みください。引取修理サービスをご利用の場合はパワーテックが引取便を手配いたしますので、不具合品を梱包のうえ、引取便のドライバーにお渡しください。
3. 弊社サービスセンターにて修理させていただきます、お客様に運送会社代金引換にてご返送いたします。通常修理の場合 2～3 営業日にて修理を完了し、お客様にご返送いたします。

【個人情報のお取り扱いについて】

当社では個人情報保護ポリシーを制定し、お客様の個人情報保護に努めております。お客様からご提供いただく情報に含まれるお客様の個人情報はお客様への連絡やお問い合わせにお答えするために取得し、他の目的に利用することはありません。また、お客様の承諾無く第三者へ個人情報を提供することはありません。個人情報に関するお問い合わせやご相談がある場合はパワーテックサービスセンター 0959-29-5111 までご連絡ください。

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

9.2 保証内容

1. 保証内容

本製品に万が一不具合が発生した場合、この保証書に示す期間及び条件に従い無償にて修理、もしくは交換させていただきます。

2. 保証期間

保証期間はご購入日から1年間とします。(保証適用除外事項は除く)

ただし、レンタル・リース業等不特定多数の者に使用される発電機についてはご購入日より6ヶ月とします。

なお、修理による交換部品及び修理部品に関しては交換及び修理日から90日間、または本体の残余保証期間のいずれか長い方とさせていただきます。

3. 保証適用除外事項

※以下に示す事項につきましては保証の適用外とさせていただきます。

- ① .保守・整備の不良、手順違いなどによる不具合
- ② .弊社が認めていない改造による不具合
- ③ .弊社の指定する以外の部品、材料、油脂類、その他の使用による不具合
- ④ .火災、天災、事故などによる不具合
- ⑤ .落下、衝撃、転倒、浸水などによる不具合
- ⑥ .取扱説明書により禁止されている、もしくは記載されていない行為による不具合
- ⑦ .消耗品、油脂類、バッテリー（搭載機種のみ）及びそれらの交換・補充にかかる費用
- ⑧ .弊社サービスセンター、もしくは弊社指定の修理工場以外で修理された場合
- ⑨ .サービスセンター、弊社指定の修理工場で自然故障と認められない場合
- ⑩ .ご購入時に販売店による保証書への必要事項への記入及び捺印が無い場合
- ⑪ .保証書を紛失された場合、もしくはご呈示いただけない場合
- ⑫ .煤煙、薬品、オイル、酸性雨、石はね、鉄粉、降灰、塩分などの外部要因による不具合
- ⑬ .点検、定期点検、整備、定期交換部品の交換、調整、清掃
- ⑭ .使用に影響しない感覚的現象（振動、音等）
- ⑮ .経時変化や使用によって発生する現象（塗装、樹脂部品の自然退色、錆、腐食など）
- ⑯ .洋上での使用（塩水または塩風の影響）による不具合
- ⑰ .弊社が示す仕様（エンジン定格最大回転数・定格出力等）の限度を超えるなど過度の使用状況が本体に見られた場合による不具合。
- ⑱ .構成部品等の破損、もしくは故障をしたままの使用による不具合
- ⑲ .本体への異物混入（水分、砂または泥埃等）が原因となる不具合

4. 付随的損害

本製品の起因による付随的損害（使用機器の故障、発電機の停電による事故、不具合など）については補償できませんのでご了承ください。

また、発電機を使用できなかったことによる損失等（休業補償、営業損失）についても保証適用外とさせていただきます。

5. 保証の発効

この保証書をご購入いただいたお客様と販売店による必要事項の記入、捺印にて有効となります。

6. 保証の適用

この保証書は株式会社パワーテックが日本国内で販売する発電機を日本国内で使用する場合にのみ適用されます。パワーテックが販売していない商品や国外で使用された商品は保証の適用外となります。

POWERTECH 発電機

保証書

本保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

製品形式	PG1700i
シリアルナンバー	
ご購入年月日	年 月 日
販売店	

お買い上げの際に販売店様に購入年月日と販売印を記入・捺印していただくようお願いいたします。

保証に関する詳細については本書に記載されている保証内容をご参照ください。

お客様お問い合わせ・修理窓口のご案内	
(株)パワーテックサービスセンター	
〒 851-3305 長崎県西海市西彼町喰場郷 938-7	
電話	0959-29-5111
FAX	0959-29-5566
E-mail	info@power-tech.jp
電話受付時間	10:00 ~ 17:00
※土曜、日曜、祝祭日、パワーテックが定める休日は休業日とさせていただきます。	

POWERTECH Inc.
株式会社パワーテック

<http://power-tech.jp>

2019.10 ver1.1